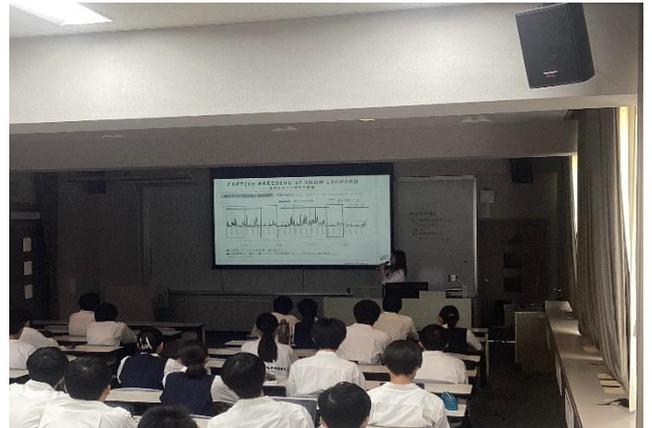


特設科学[野生動物を研究するとは？～ユキヒョウを例に～]

10月11日(金)、京都大学の木下こづえ先生をお招きし、「野生動物を研究するとは？～ユキヒョウを例に～」というタイトルで、2年生GS科の生徒を対象にご講演いただきました。

ユキヒョウという名前を聞いたことや、動物園で見たことがある生徒はいるものの、多くの生徒にとってその生態について初めて学ぶ機会となりました。完全肉食のネコ科動物であるユキヒョウが植物を摂取する様子を見せていただき、その映像を得るために必要な準備や工夫についても知ることで、研究を進めるためには忍耐力が重要であることを改めて感じたとの声が多くあがりました。生徒たちが今後の探究活動に根気強く臨んでくれることを期待します。



生徒たちの声

ユキヒョウは、私の生活にはあまり馴染みがなく、動物園で見たことがあるかもしれないというくらいの動物でした。しかし、今回の講座をとおして、ユキヒョウが標高の高いところにも生息していることや、肉食であるにもかかわらず、植物を食べているとみられる映像が得られたということが分かりました。また、そのユキヒョウの研究の話の間で、生物の研究には長い年月がかかるため根気強く続けることや、目的を明確にし、見失わないようにすることが大切であるということも学びました。

お話を聞く前はユキヒョウの絶滅を防ぐという観点しか自分の中で考えていなかった。しかし、『絶滅』というキーワードからユキヒョウの自然的な繁殖を促すという点、さらにユキヒョウを通して世界の文化を知り、その文化、土地の人々を守っていくとつながっていることに感銘を受けました。同じネコ科の動物でも機能や生き方が全く異なることを知り、興味深かったです。ユキヒョウは2頭一緒に展示されていると仲良くみえるが、実際はストレスホルモンが多いということを知って、今後動物園で見る際の見方が変わると思いました。

ユキヒョウの現状について知り、世界の動物についてより興味が湧きました。今回の講座を受ける以前に、生物の研究は他より時間が必要だと聞いたことがありましたが、博士号を取得する前は4年間、取得以降も10年以上ユキヒョウについて研究していると知り、とても驚きました。また、海外へ赴く際の費用にクラウドファンディングを何回か利用していたと聞いて、自分だけでなく他者の支援も大切にする事でより良い研究が進められると分かりました。

単に研究内容を知るだけでなく、その研究を始めたきっかけや考え方、研究している事柄に関する文化や社会情勢など数多くのことを学びました。疑問を追求することが研究の根底にあることを再認識できたうえに、ただ自分の研究を進めていくだけでなくその過程で関わった人や地域にまで視野を広げて行動することの重要性を感じました。自分の大学での生活やそれ以降の人生で役立たせたいと思います。

ユキヒョウの研究を通して、日本とアジアの国の文化の違いを調べるのが面白かったです。また、野生動物の研究はフィールドワークが非常に多く、理系の研究の方法は多様だと思いました。ユキヒョウの研究では、生物の知識だけでなく物理の知識も必要なのは意外でした。